

3. 2017 年度活動概要

ESP 研究会(中部)は、「工業英語協会とのコラボレーション」企画として、法人会員の日本工業英語協会との共同研究の結果を 2017 年度の国際大会でポスター発表を行った。

「文系学生のテクニカル・ライティング」を主題として、文系学生のテクニカル・ライティングの認知度が低いことに比べ、学習の必要性が高いことを学習者のアンケート分析の結果を通して報告した。その背景には、社会のニーズがテクニカルな英語能力を求めていること、文系学生の希望する職業がテクニカルな英語を求めていることが有機的に関連していると考えられる。今年度の調査は、ライティング教育、特に、ESP の場合、語彙の種類の問題ではなく、文体を意識させる必要があるという ESP 研究会(中部)が発足当初より主張してきた仮説を証明した結果となったと考えられる。この発表に関しては、昨年度・今年度を通して数回の打ち合わせを行い、アンケートを作成し、分析を行った。この研究は、会員の研究活動の活性化のためでもあり、このテーマを多くの JACET の会員にも知って頂くため本研究の発展に努めてきた。

さらに、中部支部研究大会では「ESP 教育と二次元ドットコード」のタイトルで研究会発表を行った。ESP 研究会(中部)の会員の多くが、このテーマに関係する研究を行っている。なお、二次元ドットコードは採択されている科学研究費の課題でもある。英語教員が工業分野研究に参入する可能性もこのテーマには内包されている。汎用性の高さによりいろいろな分野での応用が可能である。

今年度の大きな成果は、以上の 2 つの発表を行ったことである。今後もより一層の研究を推進していきたい。